

金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」との対応関係表

金融事業者の名称		鹿児島みらい農業協同組合		
■取組方針掲載ページのURL :		https://ja-kagoshimamirai.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/8270ae6f3b0836993058f17eaeede67f.pdf		
■取組状況掲載ページのURL :		https://ja-kagoshimamirai.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/11/4efda2132a951c627a127c8a23617033.pdf		
原則		実施・不実施	取組方針の該当箇所	取組状況の該当箇所
原則2	【顧客の最善の利益の追求】 金融事業者は、高度の専門性と職業倫理を保持し、顧客に対して誠実・公正に業務を行い、顧客の最善の利益を図るべきである。金融事業者は、こうした業務運営が企業文化として定着するよう努めるべきである。	実施	取組方針1(1)(2)、2(1)(2)、4(1)	I 取組状況 1 お客さまへの最良・最適な商品、共済仕組み・サービスの提供(1)(2) 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2) 4 お客さま本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築
	(注) 金融事業者は、顧客との取引に際し、顧客本位の良質なサービスを提供し、顧客の最善の利益を図ることにより、自らの安定した顧客基盤と収益の確保につなげていくことを目指すべきである。	実施	取組方針1(1)(2)、2(1)(2)、4(1)	I 取組状況 1 お客さまへの最良・最適な商品、共済仕組み・サービスの提供(1)(2) 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2) 4 お客さま本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築
原則3	【利益相反の適切な管理】 金融事業者は、取引における顧客との利益相反の可能性について正確に把握し、利益相反の可能性がある場合には、当該利益相反を適切に管理すべきである。金融事業者は、そのための具体的な対応方針をあらかじめ策定すべきである。	実施	取組方針3(1)	I 取組状況 3 利益相反の適切な管理
	(注) 金融事業者は、利益相反の可能性を判断するに当たって、例えば、以下の事情が取引又は業務に及ぼす影響についても考慮すべきである。 ・ 販売会社が、金融商品の顧客への販売・推奨等に伴って、当該商品の提供会社から、委託手数料等の支払を受ける場合 ・ 販売会社が、同一グループに属する別の会社から提供を受けた商品を販売・推奨等する場合 ・ 同一主体又はグループ内に法人営業部門と運用部門を有しており、当該運用部門が、資産の運用先に法人営業部門が取引関係等を有する企業を選ぶ場合	実施	取組方針1(1)(2)、3(1)	I 取組状況 1 お客さまへの最良・最適な商品、共済仕組み・サービスの提供(1)(2) 3 利益相反の適切な管理
原則4	【手数料等の明確化】 金融事業者は、名目を問わず、顧客が負担する手数料その他の費用の詳細を、当該手数料等がどのようなサービスの対価に関するものかを含め、顧客が理解できるよう情報提供すべきである。	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2)
原則5	【重要な情報の分かりやすい提供】 金融事業者は、顧客との情報の非対称性があることを踏まえ、上記原則4に示された事項のほか、金融商品・サービスの販売・推奨等に係る重要な情報を顧客が理解できるよう分かりやすく提供すべきである。	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2)
	(注1) 重要な情報には以下の内容が含まれるべきである。 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの基本的な利益(リターン)、損失その他のリスク、取引条件 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品の組成に携わる金融事業者が販売対象として想定する顧客属性 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの選定理由(顧客のニーズ及び意向を踏まえたものであると判断する理由を含む) ・ 顧客に販売・推奨等を行う金融商品・サービスについて、顧客との利益相反の可能性がある場合には、その具体的内容(第三者から受け取る手数料等を含む)及びこれが取引又は業務に及ぼす影響	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2)
	(注2) 金融事業者は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等する場合には、個別に購入することが可能であるか否かを顧客に示すとともに、パッケージ化する場合としない場合を顧客が比較することが可能となるよう、それぞれの重要な情報について提供すべきである(注2)～(注5)は手数料等の情報を提供する場合においても同じ。	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2)
	(注3) 金融事業者は、顧客の取引経験や金融知識を考慮の上、明確、平易であって、誤解を招くことのない誠実な内容の情報提供を行うべきである。	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2)
	(注4) 金融事業者は、顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの複雑さに見合った情報提供を、分かりやすく行うべきである。単純でリスクの低い商品の販売・推奨等を行う場合には簡潔な情報提供とする一方、複雑又はリスクの高い商品の販売・推奨等を行う場合には、顧客において同種の商品の内容と比較することが容易となるように配意した資料を用いつつ、リスクとリターンの関係など基本的な構造を含め、より分かりやすく丁寧な情報提供がなされるよう工夫すべきである。	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2)
	(注5) 金融事業者は、顧客に対して情報を提供する際には、情報を重要性に応じて区別し、より重要な情報については特に強調するなどして顧客の注意を促すべきである。	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、②(1)、③(2)

原則 6	【顧客にふさわしいサービスの提供】 金融事業者は、顧客の資産状況、取引経験、知識及び取引目的・ニーズを把握し、当該顧客にふさわしい金融商品・サービスの組成、販売・推奨等を行うべきである。		実施	取組方針1(1)(2)、2(1)(2)	I 取組状況 1 お客さまへの最良・最適な商品、共済 仕組み・サービスの提供(1)(2) 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、 ②(1)、③(2)
	(注1)	金融事業者は、金融商品・サービスの販売・推奨等に関し、以下の点に留意すべきである。 ・ 顧客の意向を確認した上で、まず、顧客のライフプラン等を踏まえた目標資産額や安全資産と投資性資産の適切な割合を検討し、それに基づき、具体的な金融商品・サービスの提案を行うこと ・ 具体的な金融商品・サービスの提案は、自らが取り扱う金融商品・サービスについて、各業法の枠を超えて横断的に、類似商品・サービスや代替商品・サービスの内容(手数料を含む)と比較しながら行うこと ・ 金融商品・サービスの販売後において、顧客の意向に基づき、長期的な視点にも配慮した適切なフォローアップを行うこと	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、 ②(1)、③(2)
	(注2)	金融事業者は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等する場合には、当該パッケージ全体が当該顧客にふさわしいかについて留意すべきである。	実施	取組方針1(1)(2)、2(1)(2)	I 取組状況 1 お客さまへの最良・最適な商品、共済 仕組み・サービスの提供(1)(2) 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、 ②(1)、③(2)
	(注3)	金融商品の組成に携わる金融事業者は、商品の組成に当たり、商品の特性を踏まえて、販売対象として想定する顧客属性を特定・公表するとともに、商品の販売に携わる金融事業者においてそれに沿った販売がなされるよう留意すべきである。	非該当	取組方針1(1)(2)	I 取組状況 1 お客さまへの最良・最適な商品、共済 仕組み・サービスの提供(1)(2)
	(注4)	金融事業者は、特に、複雑又はリスクの高い金融商品の販売・推奨等を行う場合や、金融取引被害を受けやすい属性の顧客グループに対して商品の販売・推奨等を行う場合には、商品や顧客の属性に応じ、当該商品の販売・推奨等が適当かより慎重に審査すべきである。	実施	取組方針2(1)(2)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、 ②(1)、③(2)
	(注5)	金融事業者は、従業員がその取り扱う金融商品の仕組み等に係る理解を深めるよう努めるとともに、顧客に対して、その属性に応じ、金融取引に関する基本的な知識を得られるための情報提供を積極的に行うべきである。	実施	取組方針2(1)(2)、4(1)	I 取組状況 2 お客さま本位の提案と情報提供①(1)、 ②(1)、③(2) 4 お客さま本位の業務運営を実現するための 人材の育成と態勢の構築
原則 7	【従業員に対する適切な動機づけの仕組み等】 金融事業者は、顧客の最善の利益を追求するための行動、顧客の公正な取扱い、利益相反の適切な管理等を促進するように設計された報酬・業績評価体系、従業員研修その他の適切な動機づけの仕組みや適切なガバナンス体制を整備すべきである。		実施	取組方針4(1)	I 取組状況 4 お客さま本位の業務運営を実現するた めの人材の育成と態勢の構築
	(注)	金融事業者は、各原則(これらに付されている注を含む)に関して実施する内容及び実施しない代わりに講じる代替策の内容について、これらに携わる従業員に周知するとともに、当該従業員の業務を支援・検証するための体制を整備すべきである。	実施	取組方針4(1)	I 取組状況 4 お客さま本位の業務運営を実現するた めの人材の育成と態勢の構築

【照会先】	
部署	金融事務課
連絡先	電話番号:099-223-7603 メールアドレス:grm.100-138@ks-ja.or.jp

※6「顧客本位の業務運営に関する原則」の原則2～7(これらに付されている(注)を含む)毎に、「実施」、「一部実施」、「不実施」、「非該当」を選択し、取組方針・取組状況の該当箇所(項目名、見出し、ページなど)を記載してください。
金融事業者のウェブサイトに掲載されている対応関係表と本報告フォーマットとに不一致があれば、金融事業者リストへは掲載されません。

共通KPI

③【共通KPIを公表しているウェブサイトのURL】※7

<https://ja-kagoshimamirai.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/11/4efda2132a951c627a127c>

④【投資信託の運用損益別顧客比率】※8、9

	-50%未満	-50%以上 -30%未満	-30%以上 -10%未満	-10%以上 0%未満	0%以上 +10%未満	+10%以上 +30%未満	+30%以上 +50%未満	+50%以上	投資信託 保有顧客数
2018年3月末									
2019年3月末									
2020年3月末									
2021年3月末									
2022年3月末	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	40.0%	50.0%	0.0%	0.0%	13
2023年3月末	0.0%	2.4%	0.0%	36.6%	61.0%	0.0%	0.0%	0.0%	70
2024年3月末	0.0%	0.0%	0.0%	6.4%	36.3%	54.1%	3.2%	0.0%	278
2025年3月末									
2026年3月末									
2027年3月末									

⑤【ファンドラップの運用損益別顧客比率】※8、9

	-50%未満	-50%以上 -30%未満	-30%以上 -10%未満	-10%以上 0%未満	0%以上 +10%未満	+10%以上 +30%未満	+30%以上 +50%未満	+50%以上	ファンドラップ 保有顧客数
2018年3月末									
2019年3月末									
2020年3月末									
2021年3月末									
2022年3月末									
2023年3月末									
2024年3月末									
2025年3月末									
2026年3月末									
2027年3月末									

※7 共通KPI(投資信託)を公表している場合は、公表しているウェブサイトのURLを記載してください。

※8 「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」(平成30年6月29日公表)に示す算出方法に従い、投資信託の運用損益別顧客比率やファンドラップの運用損益別顧客比率を公表している場合、上記区分ごとの顧客の比率を記載してください。過年度分について訂正がある場合には、訂正後の数値をご提出ください。

(参考)「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」(平成30年6月29日公表) <https://www.fsa.go.jp/news/30/sonota/20180629-3/20180629-3.html>

※9 投資信託及びファンドラップのそれぞれについて、運用損益別顧客比率の算出に使用した保有顧客数を記載してください。過年度分について訂正がある場合には、訂正後の数値をご提出ください。

共通KPI

⑥【投資信託の残高上位20銘柄のコスト・リスク・リターン】※10

2021年3月末	銘柄名	協会コード ※11 (8桁の英数字)	コスト	リスク	リターン
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高加重平均	—			

2023年3月末	銘柄名	協会コード ※11 (8桁の英数字)	コスト	リスク	リターン
1	日米6資産分散ファンド(資産形成コース)	25311183	1.16%	9.68%	3.16%
2	長期厳選投資 おおぶね	25311177	1.43%	15.74%	14.48%
3	日米6資産分散ファンド(安定運用コース)	25312183	1.16%	3.81%	-0.34%
4	つみたてNISA米国株式 S&P500	2531117C	0.50%	17.74%	15.05%
5	つみたてNISA日本株式 日経225	2531217C	0.39%	17.10%	7.26%
6	セゾン資産形成の達人ファンド	96312073	1.54%	17.50%	9.73%
7	セゾングローバルバランスファンド	96311073	0.58%	9.92%	7.18%
8	農中日経225オープン	2531198B	0.91%	17.04%	7.05%
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高加重平均	—	1.14%	10.59%	5.01%

2022年3月末	銘柄名	協会コード ※11 (8桁の英数字)	コスト	リスク	リターン
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高加重平均	—			

2024年3月末	銘柄名	協会コード ※11 (8桁の英数字)	コスト	リスク	リターン
1	日米6資産分散ファンド(資産形成コース)	25311183	1.16%	9.89%	3.95%
2	米国株式 S&P500インデックスファンド	25311193	0.94%	17.11%	21.40%
3	長期厳選投資 おおぶね	25311177	1.43%	15.52%	17.22%
4	つみたてNISA米国株式 S&P500	2531117C	0.50%	17.11%	21.55%
5	日米6資産分散ファンド(安定運用コース)	25312183	1.16%	4.33%	-0.86%
6	セゾン資産形成の達人ファンド	96312073	1.54%	16.54%	15.53%
7	つみたてNISA日本株式 日経225	2531217C	0.39%	17.06%	15.57%
8	C世界資産選抜 育てるコース(資産形成)	51311191	1.63%	11.30%	4.09%
9	セゾングローバルバランスファンド	96311073	0.58%	9.72%	11.15%
10	農中日経225オープン	2531198B	0.91%	17.00%	15.34%
11	Oneニッポン債券オープン	47311167	0.91%	2.73%	1.52%
12	世界資産選抜 収穫コース(予想分配金)	51312191	1.63%	7.95%	1.75%
13	イリー・ギフォード世界長期成長株ファ	3311191	2.08%	27.37%	19.98%
14	JA日本債券ファンド	2531200C	0.26%	2.46%	-1.47%
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高加重平均	—	1.10%	11.79%	8.75%

※10 「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」(平成30年6月29日公表)に示す算出方法に従い、投資信託の預り残高上位20銘柄のコスト・リターン、リスク・リターンを公表している場合、預り残高上位20銘柄の目録見書上の正式名称・コスト・リスク・リターンと、残高加重平均のコスト・リスク・リターンを記載してください。過年度分について訂正がある場合には、訂正後の数値をご提出ください。
 (参考)「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」(平成30年6月29日公表) <https://www.fsa.go.jp/news/30/sonota/20180629-3/20180629-3.html>
 ※11 投信協会が付与する8桁(半角)のコードを記入してください。協会コードが「0」で始まる場合で入力エラーになる時は、「1」(アポストロフィ(半角/Shift+「7」で入力)を先頭に入力して試してください。